

成田市環境基本計画 2024(令和6)年度 年次総括

各重点プロジェクトの進捗状況一覧

| | 項目 | 推進目標・指標等 2027(令和9)年度 | 推進目標・指標等の状況【前年度】 2023(令和5)年度 | 推進目標・指標等の状況 2024(令和6)年度 |
|---|--|--|---|---|
| 重点プロジェクト I 生き物・里地里山 のふれあいづくり | 継続的・定期的な動植物生息 調査の実施及び情報の提供 | 第4次調査 (2024~2025(令和6~7)年度 予定) | - | 第4次調査 (2024~2025(令和6~7)年度予定) |
| | 自然環境情報の発信 | ・調査結果の情報発信 ・自然学習教材の提供 | ・市ホームページに調査結果を掲載 ・イベント時に自然学習教材を提供 | ・市ホームページに調査結果を掲載 ・イベント時に自然学習教材を提供 |
| | 生き物・里地里山の ふれあい拠点の活用 | 市及び指定管理者等が各年度4回 以上の自然観察会等のイベントを開催 | 指定管理者及びなりた環境ネットワークと市の共催 で自然観察会を合計5回開催 | 指定管理者及びなりた環境ネットワークと市の共催 で自然観察会を合計4回開催 |
| 重点プロジェクト II ゼロカーボンシティ 実現に向けたまち づくり | 市域における二酸化炭素 (CO2)排出量 | 基準年:2013(平成25)年度 2,049千t-CO2 目標値:2030(令和12)年度 1,100千t-CO2 基準年度比約46%の削減 | 2020(令和2)年度 1,582千t-CO2 基準年度比22.8%減 達成率69.5% | 2021(令和3)年度 1,645千t-CO2 基準年度比19.7%減 達成率66.9% |
| | 小・中学校太陽光発電整備率 | 75.9% | 62.1% 29校のうち18校に整備済み | 62.1% 29校のうち18校に整備済み |
| | 成田市地球環境保全協定への 参加事業所数 | 300事業所 | 200事業所 達成率66.7% | 211事業所 達成率70.3% |
| | 成田市役所エコオフィスアクションによるCO2排出削減 (市の事務事業の実施に伴う温 室効果ガス総排出量) | 【第5次計画】 基準年:2013(平成25)年度 43.51千t-CO2 目標値:2030(令和12)年度 32.46千t-CO2 | 42.76千t-CO2 達成率75.9%(第5次計画比) | 46.79千t-CO2 達成率69.4%(第5次計画比) |
| | 住宅用太陽光発電システムへの 補助件数 | 2,700件 | 2,411件 達成率89.3% | 2,445件 達成率90.6% |

成田市環境基本計画 2024(令和6)年度 年次総括

| | | | | |
|---|---|----------------------------|---|---|
| 重点プロジェクトⅢ 3Rによる循環型 まちづくり | ごみの総排出量 | 47,300t | 47,355t 達成率99.9% | 47,276t 達成率100.1% |
| | 1人1日当たりのごみの排出量 | 938g/人・日 | 981g/人・日 達成率95.6% | 972g/人・日 達成率96.5% |
| | ごみのリサイクル率 | 28.0% | 19.8% 達成率70.7% | 20.2% 達成率72.1% |
| 重点プロジェクトⅣ 環境交流の まちづくり | なりた環境ネットワーク 加入団体数 | 81団体 | 72団体 達成率88.9% | 69団体 達成率85.2% |
| | 環境に関する国際交流の推進 | 関連する国際交流事業等と連携し て定期的に開催 | 成田市多文化交流フェスティバルにおいて、ごみと 資源の分別に関する啓発ブースを出した | 成田市多文化交流フェスティバルにおいて、ごみと 資源の分別に関する啓発ブースを出した |
| 【推進事務局】 取組の成果と評価 及び今後の課題・ 方針について | 市の重点的取組における、取組の成果と評価及び今後の課題・方針については別添「2024(令和6)年度 成田市環境基本計画年次報告書」のとおり。 | | | |
| 【環境審議会】 質問及び意見に対 する回答 | 別添「令和6年度第1回成田市環境審議会 環境審議会委員からの意見及び回答」及び「令和6年度第2回成田市環境審議会 環境審議会委員からの意見及び回答」のとおり。 | | | |
| 評価及び改善提案 | <p>各プロジェクトの取組において、推進目標・指標等の状況が未実施である項目や進捗が遅れている項目については、各担当課と連携を図り速やかに改善に取り組むこと。 具体的な改善提案については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和5年3月にふれあい拠点として選定した坂田ヶ池総合公園について、継続して自然観察会等を開催し、自然とのふれあい拠点としてより活用されるよう情報発信を行うこと。 ●特定外来生物について、近年では気候の変化により動植物の生息状況も変化し、新たな特定外来生物の侵入が想定される。こうした状況の中で、市民への周知や駆除などの適切な対応を早期に実施することで、広まりを抑えることは可能であるため、今後も情報収集に努め、適切な対応を実施すること。 ●成田市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について、ゼロカーボンシティの実現に向けて引き続き、市民・事業者へ周知啓発を行うこと。また、新たな取り組みを検討すること。 ●成田市役所エコオフィスアクションについては、新たに策定した第5次計画で掲げている温室効果ガス排出量削減に関する高い目標の達成に向けて、ZEB化を視野に入れ、公共施設への太陽光発電やLED照明の導入を進めるとともに、公用車の電動化をさらに推進すること。 ●民生部門におけるCO₂排出量の削減に寄与している住宅用省エネルギー設備設置費補助について、令和6年度は新たに集合住宅用充電設備を補助対象設備に追加している。今後も社会情勢や他自治体の動向なども注視しつつ、新たな対象設備の追加についても検討するとともに、引き続き制度の周知に努め、さらなる省エネルギー設備の導入促進を図ること。 ●「ごみの総排出量」「1人1日当たりのごみの排出量」「ごみのリサイクル率」については、現行の計画目標に向けて順調に推移している。推進目標の達成に向けて引き続き広報や市のイベント等を利用した積極的な啓発活動に加え、分別ガイドブック・リサイクルの手引きを窓口や各支所・公民館等、及び出前講座等の説明会で配布することで、市民のごみに関する理解の促進に努めること。 ●事業系ごみの減量・資源化については、事業系一般廃棄物と産業廃棄物の適正分別を推進、ダンボールや古紙などの紙類や食品残さ等、資源物のリサイクルを推進し、近隣市町村の状況をみながら処理手数料の見直しや新事業について検討すること。 ●環境に関する国際交流の推進について、前年度に引き続き、令和6年度も成田市多文化交流フェスティバルにおいて、ごみと資源の分別に関する啓発ブースを出した。今後も、国際交流の観点を持ちながら環境施策に取り組んでいくこと。 | | | |